

# 仮設住宅でのストレス対策について

チーム 地震\_津波の復興

屋嘉比福々（別府翔青高校）／菅俊介（佐伯鶴城高校）／今泉敬士郎（佐伯鶴城高校）  
渡辺脩蔵（佐伯鶴城高校）／河野友哉（佐伯鶴城高校）



仮設住宅での  
ストレス対策  
について

## 1 メンバー

- 別府翔青 屋嘉比福々
- 佐伯鶴城 菅俊介
- 佐伯鶴城 今泉敬士郎
- 佐伯鶴城 渡辺脩蔵
- 佐伯鶴城 河野友哉

## 2 テーマ

長期にわたる仮設住宅  
生活のストレス軽減



## 3 設定理由

東日本大震災被災者の一部はまた仮設住宅で過ごしており...



## 3 設定理由



## 3 設定理由

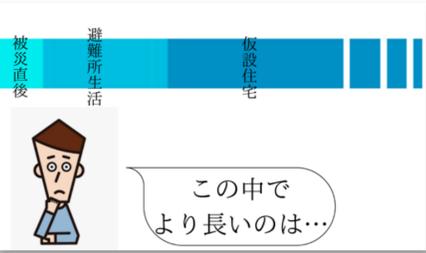


## 3 設定理由



## 3 設定理由

もし自分たちが被災した際、復興までの生活が快適なものであって欲しいため。



この中でより長いのは...



ここ！

## 4 ありたい姿

仮設住宅でのストレスフリー



## 6 穴水町役場とのミーティング結果の要約

- 問題点
- 仮設住宅の建設地→公用地ならやりやすい建設の早さ優先
  - 長期間仮設住宅に住むとなると3、4ヶ月目から「家が狭い」などの苦情が
  - 仮設住宅→プレハブ型 7割  
木造の長屋タイプ 3割
  - 復興状況→3割ほど復興済みであるが、しかし業者が見つからなかったりと進みは遅くなっている
  - 騒音問題

## 6 穴水町へのアンケートの要約

質問	回答
仮設住宅への入居時の配慮は？	・幼児、児童、高齢者、障害者、他世帯者等を優先事項。あくまで優先
コミュニティ形成の現状	・一部を除き自治会が設立されている
現在の復興進捗状況（互換補償、退去戸数）	・公費削減→40%ほど 退去割合 建築型仮設住宅3.4% 賃貸型仮設住宅3.3%
人間関係や孤独感に対するサポートについて	・情報共有や、様々な機関と連携し、月3回ほど見守り活動（今後についての相談を受けるなど）
自治体への支援、コミュニティ形成援助について	・補助金の交付は行なっている

## 5 ありたい姿と現状のGAP

- 騒音問題
- ハードの問題 ◇◇◇ 交通面での不便  
気候風土への未対応
- ソフトの問題 ◇◇◇ 仮設住宅での人間関係

## 5 ありたい姿と現状のGAP

- 騒音問題
- 隣接する仮設住宅で防音が不十分なために音をめぐるトラブルが多い



## 5 ありたい姿と現状のGAP

### 交通面での不便

- 買い物、通院のための交通手段が少なく、タクシー等を使わなくてはならなくなり移動費が高額になる（平成23年に行われたアンケートでも約4割の入居者から「不便」）



## 5 ありたい姿と現状のGAP

### 気候風土への未対応

- 大量供給が第一とされたため、風土に対応した仕様はなされていなかった。（日当たりが悪い地域での寒さ対策等）



## 5 ありたい姿と現状のGAP

### 仮設住宅での人間関係

- 特定の地域から出身した人たちが公共の場を占領しやすい
- 仮設住宅建設会社の違いにより設備に差が生まれ、妬みなど
- 孤独死



## 6 問題探究

- 慣れない避難所生活 → 身体的な疲労
- 気候風土への未対応 → 精神的な疲労
- 人間関係 → 精神的な疲労
- 騒音問題 → 精神的な疲労
- 交通面での不便 → 経済的な負担
- 住居の倒壊 → 経済的な負担

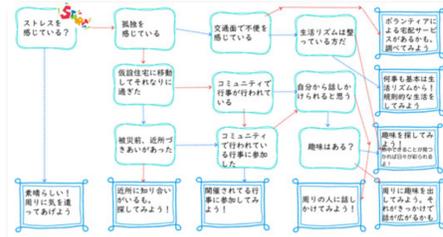
## 7 課題設定

問題探究により、ストレスが溜まる原因が明らかになった。しかし、原因だけわかってはストレスは減らない。ここで私たちは被災地の方々からストレス解消をしやすいように工夫しようと考えた。



## 8 プロトタイプ

ストレス解消方法をわかりやすくまとめるのにYES NOチャートを作成した。



## 9 総括

自分たちが被災した際にストレスなく過ごしたいため、被災後のストレスフリーについて探究していった。その中でも仮設住宅に着目し、ストレス源の特定とそれに対する適切な対処法の提示をわかりやすくまとめるように工夫した結果、YES NOチャートプロトタイプとして作成した。

## 10 参考文献

- <https://www.toshicon.or.jp/wp/wp-content/uploads/2015/04/06-2.pdf>
- 穴水町役場へのヒアリング、ミーティング
- 震災後の仮設住宅における近隣関係—熊本県被災地の仮設住宅とみなし仮設住宅の比較する— 小池 尚史
- 大震災直後からのコミュニティの再構築とコミュニティの脆弱性に関する研究—インドネシア、アフガニスタン、シリアの仮設住宅を事例として— 高橋 知博、松尾 正史
- 仮設住宅の居住環境に関するアンケート調査結果を踏まえた対応について（仮設住宅の居住環境等に関するPT中継報告書）
- <https://news.yahoo.co.jp/exper/articles/9efc90b48e07bce621f5e87e2b1b7f102ab>
- <https://search.app/9NqXZ565p353w6>
- <https://www.nikkei.com/article/DGKKZ056642870Q0A310C2CR000/>
- [https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/life/shelter\\_life/](https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/life/shelter_life/)



発表動画は  
こちら



# 時代に合った校則について

チーム 校内ジェンダーギャップ

安藤昂樹（宇佐高校）／長岡航正（宇佐高校）

### 時代に合った校則について

宇佐高校 安藤昂樹 長岡航正

### ありたい姿（理想の学校）

生徒のアイデンティティの形成を阻害しない学校作り

### 設定理由

僕たちの進路は教育学部に進学するという共通点から、学校作りに興味を持ち、身近な校則について探究したいと思ったから

### そもそも校則とはなにか

校則は、学校が教育目的を実現していく過程において、児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定められるもの。  
校則の内容は、児童生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえたものになっているか、絶えず積極的に見直さなければならない。

[https://www.mext.go.jp/content/20230220\\_mxt\\_jidou01-500024599-201-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230220_mxt_jidou01-500024599-201-1.pdf) 文部科学省より

### ブラック校則とは

・人権や健康などを脅かす恐れのある不合理な校則

代表的な例としてはブロークの禁止や、下着の色指定など

・元々は生徒が事件・事故に巻き込まれるのを防止するため、あるいは風紀の乱れ防止を目的として定められた。

<https://kyoin.co.jp/column/black-school-rules/>

### 校則の必要性について思うこと

学校の秩序を守るためには必要だと思う

しかし、必要以上に自由を縛る校則は不適切であると思う

<https://www1.bs.co.jp/futek/butsuinmocho/dogaru/>

### 宇佐高の校則を見て思ったこと

・理不尽な校則（いわゆるブラック校則）というのは無いと思う。

・メイク禁止、髪染め禁止、髪の長さ等の容姿を指定するものがいくつかある。

<https://kou.ohs-ed.jp/usa/校則/>

### 現状

同学年の宇佐高校生129人にアンケートを取ったところ、半分以上の人が今の学校の校則に不満を持っていると回答

いいえ 61  
はい 68

53% 47%

YES NO

### 具体的な内容を聞いてみると、

・靴下の色が決められていたり、ベルトの色が決められているのが嫌だ  
・女子のヘアゴムやヘアピンに決まりがあることが嫌だ  
・許可をとらないと防寒着を着られないのがおかしい  
・少しだけの装飾品や髪染めをOKにして欲しい  
・校則としてダメにするなら明確な理由も書いて欲しい

などなど、複数意見は挙がっていたが、特に服装、装飾品、スマホなどについて不満が多かった。それに加え、校則の在り方そのものに対する意見もいくつかあった。

### GAP

ありたい姿と現状を比べるために、子どもの権利条約と宇佐高校の校則を照らし合わせてみる

宇佐高の校則	子どもの権利条約
・自分の好きな格好はできない	第13条 表現の自由
・校則は基本学校側が決める	第12条 子どもの意見を尊重する権利
・もし変えたくても、話し合いをする機会などが少なく、中々通らない	第12条 子どもの意見を尊重する権利
・校則の理由も明確に示されていない	第12条 子どもの意見を尊重する権利

<https://www.achisen.org/post/18679023/>

### 具体的に比較すると・・・

・服装、髪型に関する校則→CRC（子どもの権利条約）13条「表現の自由」の制限

・外見や装飾品の規定→CRC第13条「表現の自由」の制限

・携帯電話の使用に関する罰則（複数回の違反で段階的に厳しくなる対応や、その他規定違反の際の罰則→CRC第37条「不当または残酷な扱いを受けない権利」を確認する必要がある

### 問い

校則で制限することによって風紀は整うのか？

### 問いの探究

とある県の高校で実際に髪の色や化粧についての校則を試験的に廃止した実験が行われた

[https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article\\_20240215\\_32812](https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article_20240215_32812)

### 問題と原因の探究

アンケート結果（101名回答）

Q1 髪色を変えたり化粧をしましたか？  
はい 24.8%  
いいえ 75.2%

Q2 学校の風紀が乱れたと思いますか？  
はい 10.1%  
いいえ 89.9%

[https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article\\_20240215\\_32812](https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article_20240215_32812)

### 分かったこと

・校則を廃止して、好きな髪型や髪色、メイクをして学校に行きたい人は一定数いる

つまり、校則のせいで好きな格好ができない人がいる

・グラフから風紀が乱れたと感じている人は1割程度

### 実験を行った学校の生徒の感想

女子生徒：「メイクはしました。生活するのが100倍楽しいです。（この学校に）入ってよかったです、本当に」  
男子生徒：「（髪型を変えたり）できるというだけで自由な感じで、学校もちょっと楽しくなるかなと思う」  
男子生徒A：「髪染めしたりエクステしたり化粧したりで、他の学校や近所の人から見たら「乱れている」と思われても仕方ない部分はあるかなと思います」  
男子生徒B：「校則を廃止した時に学校外のイメージが下がってしまうと、これらから入ってくる新入生とか長期的に見た時に学力が下がったりする可能性はある」

### 考察

学校生活で、好きな髪色や好きなメイクをしたいと思っている人はいる

近隣の人からの視線を気にする生徒も一定数いる

風紀の乱れを感じている人に対する配慮をする必要がある

### プロトタイプング

子どもの権利条約、生徒の声を元にして、現実的に提案できそうな校則を考えてみました！

### 新しい校則を提案しよう！！

・髪染めは、髪の一部のみ可能とする（例：インナーカラー、ポイントカラーなど）

・家でメイクをして登校、学校内でメイクをすることは禁止

・華美すぎるメイクは控える、ヘアピンやヘアゴムは自由

・靴下やベルトの色は自由

### 今の校則

下線部を変更

### 新たに提案する校則

髪型について  
(1) 髪染めは、髪の一部のみ可能とする。（例：インナーカラー、ポイントカラーなど）  
メイク、装飾品について  
(1) メイクをする場合は、必ず家でしてから登校する。原則学校内でのメイクは禁止  
華美すぎるメイクは控える。  
(2) 装飾品（装飾のある髪留めやゴム、指輪、ネックレス、ピアスなど）も華美すぎるものでなければついてもよい。但し、管理は自己責任とする。  
靴下やベルトの色も派手すぎるものでなければ何色でもよい。

### 総括

ブラック校則は減ってきているが、まだ現代に合っていない校則がたくさんあることが分かった。子どもの権利条約など、自分たちが主張できるもの、利用できるものはたくさんあるのだから、自分たちの権利を守ろうという意識を少しずつ広げていきたいと思う。

また、今回の探究の結果を宇佐高の先生たちと相談した後、実際に提案できたらいいと思う。

### 参考文献

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/setoshidou/1404008\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/setoshidou/1404008_00001.htm) (生徒指導要綱 文部科学省)

<https://kyoin.co.jp/column/black-school-rules/> (ブラック校則とは)

<https://chatgpt.com/g/e-FtRzXtKsQ-tyatute-gat-ri-ben-yu> (Chat GPT)

[https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article\\_20240215\\_32812](https://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article_20240215_32812) (校則による風紀の乱れ)



発表動画はこちら





# 熱中症に対する意識改善

チーム IHA

田村明香利（爽風館高校）／荒金駿太郎（別府翔青高校）／笠置忠伸（別府翔青高校）  
井上凌輔（別府翔青高校）／原田侑（別府翔青高校）

IHA

荒金駿太郎 笠置忠伸 井上凌輔 原田侑 (別府翔青) 田村明香利 (爽風館)

チームメンバー紹介

氏名(学校) 荒金駿太郎 (別府翔青) 高校生活でかを入れていること(趣味・部活など) 美術部と吹奏 氏名(学校) 笠置忠伸 (別府翔青) 高校生活でかを入れていること(趣味・部活など) 数学

氏名(学校) 井上凌輔 (別府翔青) 高校生活でかを入れていること(趣味・部活など) 美術2組と美術3組を統括する 氏名(学校) 原田侑 (別府翔青) 高校生活でかを入れていること(趣味・部活など) 剣道

氏名(学校) 田村明香利 (爽風館) 高校生活でかを入れていること(趣味・部活など) 演劇の指揮

テーマ

テーマー  
～熱中症に対する意識改善～

テーマを決めた理由

・設定理由  
夏の気温上昇を強く実感し、熱中症対策を自身で行わないといけないと思ったから

やりたい事

・自分達の考えたやりたい姿  
熱中症に対するリスクマネジメントができるようになる

現状とやりたい姿のGAP

・やりたい姿と現状とのGAPについて  
熱中症に対するリスクマネジメントができる

現状

気づいたら熱中症になっている

GAP

熱中症の初期症状を知らない  
処置を知らない  
熱中症対策の知識がない

課題の探求について

○水分補給アプリを試す  
→アプリを開くのが億劫で記録しにくい  
○保健だよりに掲載されている内容の把握  
→予防方法 応急処置 室内での対策  
○保健室の先生にヒアリング  
→人数 症状 多い時期や時間帯  
高校生にアンケートを取る

保健室だよりの内容(一部抜粋)  
・予防方法  
→汗をかくときは水だけでなく塩分をとる  
・応急処置(FIRE)  
・室内での対策  
→喉が渇いていなくても水分を取る  
保健室の先生にヒアリングした内容  
・1日に2、3人症状をうたててくる  
・症状は主に吐き気、頭痛  
・5、6月から増え、午前中に来る生徒が多い

仮説

熱中症になる原因は生徒の対策が不十分であるから

仮説の検証(アンケートの実施)

アンケートの分析方法

熱中症になった人と熱中症になっていない人を分け、アンケートの各項目をそれぞれで比較

比較する項目

・睡眠時間  
・朝食をとっているか  
・対策方法を知っているか  
・初期症状を知っているか  
・水分補給をしているか

熱中症になった人・・・115人(29%)  
熱中症にならなかった人・・・284人(71%)

朝食を食べているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人

睡眠時間

熱中症になった人 熱中症になっていない人

水分を摂っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人

初期症状を知っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人

対策方法を知っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人

比較の結果、大きい差が見られなかった  
↓  
部活生であれば運動量が多いのでグラフに差ができるのでは

朝食を摂っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人 部活動でなかった人

睡眠時間

熱中症になった人 熱中症になっていない人 部活動でなかった人

水分を摂っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人 部活動でなかった人

初期症状を知っているか

熱中症になった人 熱中症になっていない人 部活動でなかった人

対策方法を知っているか

熱中症になっていない人 熱中症になっていない人 部活動でなかった人

部活生との比較でも差が見られなかった  
↓  
比較した項目以外の要因があるのではないかと

改めてアンケートを分析  
熱中症になった115人のうち80人(約7割)が学校でなっている  
↓  
その80人のうち68人(約9割)が部活生

仮説2

部活動の方法に問題があるのでは?

プロトタイプ  
パンフレットを印刷  
教員に配布し、見てもらう予定

参考文献  
暑さ指数(wbgt)  
<https://testpage.jp/tool/wbgt.php>

wbgt  
[https://www.wbgt.env.go.jp/mntr/2024/wbgt\\_2024/wbgt\\_83216\\_202410.csv](https://www.wbgt.env.go.jp/mntr/2024/wbgt_2024/wbgt_83216_202410.csv)

熱中症予防情報サイト  
[https://www.wbgt.env.go.jp/record\\_data.php?region=10&prefecture=83&point=83216](https://www.wbgt.env.go.jp/record_data.php?region=10&prefecture=83&point=83216)



発表動画は  
こちら



# Effective Sleep

チーム Effective Sleep

三神楓花（大分西高校）

Effective Sleep

三神楓花(大分西高校)

自己紹介

- 氏名(学校)  
三神楓花(大分西高校)
- 高校生活でかかっていること(興味・特技など)  
無遅刻・無欠席を目指してがんばっています
- テーマを選んだ理由  
自分に合う睡眠を取る方法を模索したいと思ったから

テーマ

一睡眠

より良い睡眠を取るために  
睡眠状況の改善のきっかけをつくる

ありがたい姿

時間に制約がある高校生でも  
自分に合った満足度の高い睡眠を取れること

理由

授業中に寝てしまうことがある  
休日の昼寝の時間が長いこと

睡眠の役割

- 01 疲労の回復
- 02 内臓や筋肉の修復
- 03 免疫力の回復
- 04 成長ホルモンの分泌
- 05 記憶の整理・定着
- 06 脳と体を休める

集中力が低下する

眠気があると思考力や集中力が維持できないため、太りやすくなる

生活習慣病

睡眠不足による影響

免疫力の低下

頭痛めまい

感情抑制が難しくなる

風邪をひきやすくなる

自律神経のバランスが乱れ、ホルモンの分泌も乱れるため。

良い睡眠の3つの条件「量」「リズム」「質」

- 十分な睡眠時間  
約8時間の睡眠時間が理想的
- 安定した眠り  
睡眠の質をあげる
- 規則正しい睡眠  
睡眠サイクルを整える

運動習慣を身に付ける

体内時計

質の良い睡眠を取る方法

入浴

カフェイン

効果的な入浴をする

就寝前のカフェインを避ける

快適な睡眠環境を整える

規則正しい睡眠

1. 体内時計

2. ソーシャル・ジェットラグ(社会的時差ぼけ)

休息モード

活動モード

体内時計は24時間より少し長いので、一日のサイクルとズレが生じる。そのズレをリセットするのが朝の光

週末に平日より長く寝ることで、睡眠のリズムがずれ、時差ぼけのような状態になること

どれを改善すれば良いかわからない

現状

平日のスケジュール

休日のスケジュール

M2 平日のスケジュール

M3 休日のスケジュール

K2 平日のスケジュール

K3 休日のスケジュール

スケジュールまとめ

- 平日の睡眠時間に大きな差はない
- 就寝時間に大きな影響を与えているのは自由時間の使い方
- 休日の起床時間に大きな影響を与えているのは翌日に用事があるか否か(用事がなければ昼まで寝る)

私の課題

現状: 授業中に寝てしまうことがある

原因: 睡眠不足

解決策: 睡眠時間を伸ばす

実験

結果

睡眠の質が良くても量が少なければ睡眠不足を感じる

良い睡眠の条件を一つだけ満たしてもダメ

全ての条件を満たす必要がある

平日のスケジュール

休日のスケジュール

高校生の高校生による高校生のための睡眠チェックリスト

質問内容

- 就寝時間
- 起床時間
- 睡眠時間
- 部活動の参加の有無
- 通学時間・通学方法
- 日中眠気を感じるか
- 運動しているかどうか
- スッキリ目覚められるか
- 夜中に目が覚めるかどうか
- 就寝前のスマホの使用の有無
- 勉強に集中して取り組んでいるか

改善方法(例)

現状

- 日中眠気を感じる
- 運動していない
- 就寝前にスマホを使用している

解決策

- 仮眠をとる/目をこぼる
- 少しでもいいので軽く運動する
- なるべく使用しないようにする

就寝時間・起床時間

就寝時間	起床時間
00: 0:30 0:40 2 0:45	05: 5:20 2 5:30 (1)
01: 1:00 1:20 2	07: 7:30 2 7:40 7:50
02: 2:00 2:30 2	08: 8:30 2
22: 22:40 2 22:50 (5)	09: 9:00 9:30 9:50
23: 23:00 23:10 (5)	10: 10:30
23:30 2 23:40 2	11: 11:00 11:10
	12: 12:00

睡眠時間

- 3時間未満
- 3時間以上4時間未満
- 4時間以上5時間未満
- 5時間以上6時間未満
- 6時間以上7時間未満
- 7時間以上8時間未満
- 8時間以上9時間...
- 9時間以上10時間...
- 10時間以上

メリット・デメリット

メリット

- 始めやすさ
- 継続のしやすさ
- 約1分で回答可能

デメリット

- データ収集に時間がかかる
- データが少ない場合正確に分析することは困難

睡眠チェックリスト

高校生の睡眠チェックリスト

項目	達成状況
1. 毎日決まった時間に寝る	
2. 毎日決まった時間に起きる	
3. 毎日7時間以上寝る	
4. 毎日決まった時間にスマホを使う	
5. 毎日決まった時間に勉強する	
6. 毎日決まった時間に運動する	
7. 毎日決まった時間に食事をする	
8. 毎日決まった時間に風呂に入る	
9. 毎日決まった時間に朝顔を飲む	
10. 毎日決まった時間に朝顔を飲む	

参考文献

- <https://www.kyokaikengo.or.jp/~media/Files/hiroshima/kenkoudukuri/2023121403.pdf>
- <https://www.kyokaikengo.or.jp/~media/Files/hiroshima/kenkoudukuri/2023121404.pdf>
- <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001181265.pdf>
- [https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou\\_eiyou\\_chousa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html)
- [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_45540.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_45540.html)
- <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/>
- <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/heart/yk-039.html>
- <https://www.jpm1960.org/kawara/04/social-iet-lag.html>
- <https://www.ncgg.go.jp/ri/labo/22-2.html>





# 若者の政治意識について

チーム 未来を変えるものたち

釘宮彩人（大分西高校）／河野緋友（大分商業高校）／池部翔大（大分雄城台高校）／水江友志（別府鶴見丘高校）



**テーマ** そのために

政治を若者の間で身近な話題にするために!!!

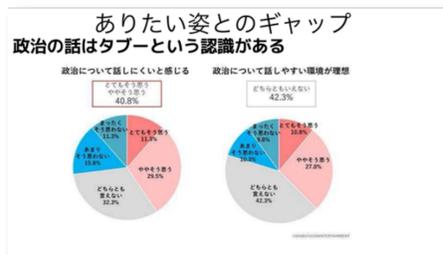
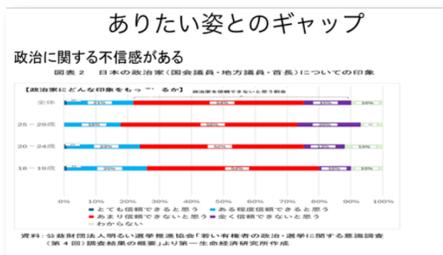
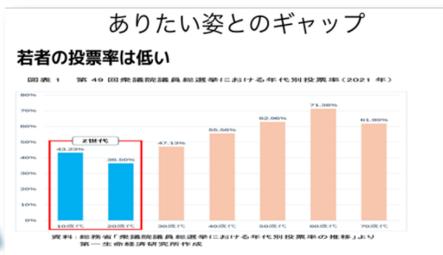
小学校や会社でも、日常的に政治の話が出来る社会にしていきたい。

**設定理由**

SNSやニュースなどで政治の現状を知りこのままでは良くないと感じたため。

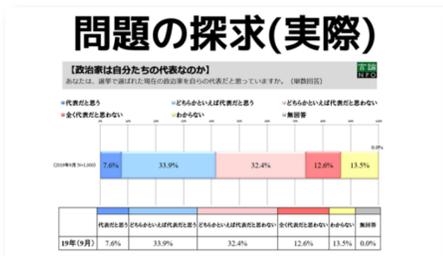
**ありたい姿**

自分達の考えたありたい姿は小学校や会社、家族の間で政治についての話を気軽にでき、若者が当たり前政治に参加する社会



**問題の探究(仮説)**

学校での授業で政治に対する苦手意識ができてしまったのではないかとSNSに出てくる政治家の問題により不信感が募ったのではないかと



**アンケートでは**

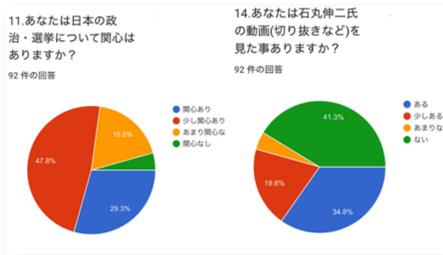
若者向けの政策がないことやSNSで政治家の汚職問題などが取り上げられていて政治家に対する信頼を持っていないなどの意見

**課題の設定**

どうすれば政治意識に対する苦手意識が無くなるのか？

**課題の解決方法**

1.政治の解説動画を制作する。



**解説系の動画**

政党紹介の動画 や 政治家紹介の動画

短く、見やすく Shorts

どのような目標を掲げているのか、どのような成果を挙げたのか、など

挙げられた成果を沢山発信していくことで、政治に対する不信感を和らぐ

↓

「自分が行っても無駄」という考えを変えられるかも

**課題の解決方法**

↓

2.政治についての絵本を作る

**なぜ絵本にしようと思ったのか**

絵本にすることで、子供はもちろん親と一緒に学べる事が出来る、改めて政治について知れるからです。

あと、小さい頃から絵本を読むことで想像力や感性が育ち、言葉が増えるなど、脳の発達にもつながり今後生きていく時に欠かせないものも身につけることができ、学校で教えてくれない政治について深く学んで行けるからです。

絵本を読むには、次のような効果があります。

- 想像力や感性が育つ
- 言語能力や読解力が向上する
- 集中力が身につく
- 感情表現力が豊かになる
- 親子のコミュニケーションが深まる
- 親子の信頼関係が深まる
- 子どもたちの情緒が安定する

政治についての絵本一覧 (絵本ナビ)

**政治についての絵本とは？**

**理由**

政治についての絵本があまり広まってなく、新しい取り組みであると思う。そのため、子供が小さい頃から政治に触れさせるために政治の絵本を読ませたいと考えたため。

参考文献

<https://www.kamogawa.co.jp/kensaku/syoseki/ha/1160.html>

[https://docs.google.com/forms/d/1pEaO6cCmLKGE0SKAGECqQCfDtOq6Tae7kH\\_uNYlj7k/edit?vc=0&c=0&w=1&flr=0&no\\_redirect=true#responses](https://docs.google.com/forms/d/1pEaO6cCmLKGE0SKAGECqQCfDtOq6Tae7kH_uNYlj7k/edit?vc=0&c=0&w=1&flr=0&no_redirect=true#responses)

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/381661.html>

<https://www.genron-npo.net/future/archives/7410.html>



# 避難所生活における快適なプライベート空間の確保とその課題

チーム Reバイバラーズ

杉山立旨（別府翔青高校）／清田蒼（佐伯鶴城高校）／岡田蓮（佐伯鶴城高校）／小野陽信（佐伯鶴城高校）

Reバイバラーズ  
成果発表

about we  
メンバー紹介

3 自己紹介

杉山立旨（別府翔青）  
趣味 空手

清田蒼（佐伯鶴城高校）  
趣味 音楽を聞くこと

3 自己紹介

小野陽信（佐伯鶴城高校）  
趣味 漫画 寝る

岡田蓮（佐伯鶴城高校）  
趣味 テニス 音楽

避難所生活における  
快適なプライベート空間  
の確保とその課題

<設定理由>  
自分達が被災した際に  
現状の避難所では、  
「避難生活が辛い」と  
感じる人が多いため  
快適なプライバシー空間を  
あまり保護できていないと考え、  
不安になったから

<現状とのギャップ>

**現状**

- お湯やガスが使えないことが多く、食べられるものが限られる
- ペットを受け入れる避難所が少ない
- 簡易ベッドやトイレの数が限られる
- 仕切りやテントはあるが音漏れや簡単に開けることができる

**理想**

- 誰もが満足できるような食料（温かさ、味）
- 誰もが過ごしやすい空間（周りに気を使わなくていい）
- 誰もが寝やすい、過ごしやすい照明が整えられている環境
- 避難者が安心して着替えられる環境

<問題の探究>

現状と理想のGAPとしては「誰もが」という点が挙げられる。  
寝るのにちょうどいい明るさや温度、照度や食の好みなど個人差があるから。

①現状、改善は難しい（個人の考え方の矯正や我慢を強いる）  
解決方法を専門家に聞いてみる

②実際に体験してみないとわからないので、避難所で生活してみる

問題の探求

①市役所へのヒアリング調査  
②フィールドワーク（鶴城高校体育館）

～佐伯市役所へのヒアリング～

〇備蓄倉庫の備品

(例)簡易ベッド(段ボール・もち運び・組立)  
仕切り・断熱シート・テント  
アルファ化米（お湯 or 水が必要）  
粥パン・缶詰

音や光に対する対策があまりなされていない  
自分で対策をする

協力 佐伯市役所防災危機管理課

②フィールドワーク

実際に避難所に指定されている佐伯鶴城高校の体育館に泊まった。  
調べたポイント

- 現状の再確認
- 温度、音、光、周囲の空間についての調査

音の現状  
音(dB)を測る機材を用いたところ  
環境音 40～44dB  
小声話 46～50dB  
大声話 60～65dB  
(赤ちゃんの泣き声 60dB以上)  
叫び声 90～95dB  
(犬の鳴き声 90～100dB)  
足音がうるさいと感じた

温度の現状  
12月の為とても寒かった。(10～13℃)  
毛布などが借りることができなかったため寒さを凌ぐのが大変だった

②フィールドワーク

実際に避難所である佐伯鶴城高校の体育館に泊まった。

光の現状  
テントと仕切り  
テントの場合光を遮断できる閉鎖式の窓が付いていて良い  
仕切りは光が入ってきてしまう  
体育館の電気をつけると周りの人に迷惑になるためランタンや懐中電灯が重要視された

周囲の空間の現状

- 仕切りのメリット
- 簡易ベッドの設置
- スペースが広い
- 開放的
- ～デメリット～
- プライバシーが守られない
- 寒い
- 光が当たり入りつたりする
- ペットや動物の設置で争いが起きる
- ～テントのメリット～
- 光が入りづらい出づら
- プライバシーが守られる
- ～デメリット～
- 狭くて、ベッドが置けない
- ほぼ地面で床が硬い
- 寒い

探究をして見つけた課題

実際に避難所で一泊をしてみて避難所に備蓄されている持ち運びや収納がしやすいテントは防音性に長けていないと感じたため、他の人の話声や足音が聞こえやすくプライベート空間を確保しにくい。  
夜は10°まで冷え込むため、備蓄されていた寝袋だけでは寒い  
→防音に長けたテントや防寒具

テント内で話している時の音量

※テントの外の一般的な話声の音量は60dBほど

<プロトタイプ>

避難所生活を経て足りないものや自分たちで持ってきた方がいいものと考え、自助リストにまとめました。

自助リスト

音	耳栓 イヤホン・ヘッドホン
光	アイマスク ランタンや懐中電灯
温度	毛布 扇風機 寝袋 カイロ イヤウォーマー
食事	非常食 離乳食やアレルギーを考慮した食品 3日分以上の水

総括

ヒアリングや体育館での体験を通し避難所の快適なプライベート空間を確保する為には備蓄品に頼り切らず自分で耳栓やアイマスクなどを用意する(自助)の考え方が重要だと考えた。

参考文献

避難生活に関するアンケート  
<https://www.civic-force.org/docs/41702c7af1fe12723566e85285c220daf4f9e63a.pdf>

佐伯市鶴城高校 危機管理マニュアル  
<https://2024steam.slack.com/files/U07A882ARBQ/F084KME5DAN/ed8124ed34e2bc64ec5c1a157ddf9a07.pdf>

佐伯市防災危機管理課 ホームページ  
<https://www.city.saiki.oita.jp/list00145.html>

発表動画は  
こちら



# 動物との共生

## チーム 動物愛護

安達美聡 (大分豊府高校)

The presentation consists of 40 slides, organized as follows:

- Slide 1:** Title slide: 動物愛護チーム 動物との共生 (Animal Welfare Team: Coexistence with Animals). Presenter: 安達美聡 (大分豊府) (Mitsuru Ando, Oita Toyohira High School).
- Slide 2:** チームメンバー紹介 (Team Member Introduction). Includes name (安達美聡), school (大分豊府), and research topic (動物との共生).
- Slide 3:** テーマ (Theme): 一人と動物の共生 (Coexistence of One Person and One Animal). Sub-theme: 人間も動物も傷つかない社会 (A society where neither humans nor animals are harmed).
- Slide 4:** テーマを決めた理由 (Reason for choosing the theme). Reason: 人間の都合で動物が不幸になることが良くないと思ったから (Because I thought it was bad that animals become unhappy due to human convenience). Diagram shows a balance scale with '人間以外の動物' (Animals other than humans) on one side and '人間' (Humans) on the other.
- Slide 5:** ありたい姿 (Desired state): 人間も動物もwell-beingな社会の実現 (Realization of a society where both humans and animals are well-being). Reference: 『人間も動物もwell-beingな社会の実現』 (Realization of a society where both humans and animals are well-being).
- Slide 6:** 現状とありたい姿のGAP (Gap between current state and desired state). ありたい姿と現状とのGAPについて (About the gap between desired state and current state). 動物が人間と同じように扱われる (Animals are treated the same as humans).
  - 現状 (Current state): 動物はwell-beingではない (Animals are not well-being), 飛行機でペットは荷物と同じ (Pets on planes are treated as cargo), 殺処分 (Euthanasia), 環境汚染 (Environmental pollution), 外資種の持ち込み (Introduction of exotic species).
  - GAP (Gap): 動物が人間にとって有用かどうかで価値を判断されている (Value is judged based on whether animals are useful to humans).
- Slide 7:** 動物にとってwell-beingではないのでは? (Isn't well-being for animals?). Includes images of a dog in a car and a dog in a cage.
- Slide 8:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 獣医師の方に話を伺った (I talked to a veterinarian). Interviewee: 金子由美子さん (Yumiko Kaneko). Topic: 『大分県犬猫の保護』 (Dog and cat protection in Oita Prefecture).
  - 人と動物の共生についてどう考えるか? (How do you think about coexistence with humans and animals?)
  - 小さい頃から生き物の命に触れ命の重さを知ることが大事 (It's important to touch the lives of animals from a young age and know the value of life).
  - 命があったということは死んでから強く実感する (When you have a life, you realize death more strongly).
  - 人間以外の生き物にも命がある (Other living things have lives too).
- Slide 9:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 自分の問い (My questions): 動物の幸福と人間の幸福は両立するのか? (Can the happiness of animals and humans coexist?), 「自分のありたい姿」は正しいのか? (Is my 'desired state' correct?). Diagram shows a balance scale with '人間以外の動物の幸福' (Happiness of animals other than humans) and '人間の幸福' (Human happiness).
- Slide 10:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 自分の問い (My questions): 自分でもなぜその疑問を持ったのかわかりにくい (I don't know why I have this question). Reference: 『自分が疑問に思った経験を文章化(見える化)してみる』 (Try to write down the experiences you are curious about).
- Slide 11:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 自分の問いの物語化(現状分析) (Storytelling of my questions (current analysis)). Includes a flowchart and text: 「クマ問題」クマは駆除すべき? (Cub problem: Should cubs be exterminated?), 「動物園-ペットショップ問題」動物は売れる? (Zoo-pet shop problem: Can animals be sold?), 「紛争問題」紛争による環境破壊 (Dispute problem: Environmental destruction due to disputes).
- Slide 12:** 課題設定 (Problem setting). 選んだテーマはクマ問題 (The chosen theme is the cub problem). Includes an image of a bear.
- Slide 13:** 課題設定 (Problem setting). ユーザーに55時間続けたクマ 賢く住む「山のない」に (55 hours of continuous cub problem, wisely living in 'mountain-free'). Includes a newspaper clipping about a cub problem in Oita.
- Slide 14:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 理由 (Reasons): 人の生活に直接関わる (Directly related to human life), 人が危害を受けている問題 (Problem where humans are harmed), 熊のいない九州だからこそ、客観的に考えられる (Because there are no bears in Kyushu, it can be objectively considered).
- Slide 15:** 問題の探究 (Exploration of the problem). アンケート (本講座生徒9名) (Survey (9 students from this course)).
  - クマが人間に出没した場合、駆除すべきだと思うか (When a cub appears to humans, do you think it should be exterminated?)
  - クマの出没が増える原因は何かと思うか (What do you think causes an increase in cub appearances?)
  - 人と野生動物の共存を進めるために、どのような対応が必要だと思うか (To progress coexistence with humans and wild animals, what do you think is necessary?)
  - クマによる被害を防ぐためには、どのような対策が有効だと思うか (To prevent damage from cubs, what do you think is an effective measure?) アンケート結果からわかったこと (What we learned from the survey results): 駆除賛成派が多い (Many support extermination), ただし、理由を理由を重視する人が増えた (However, more people are valuing reasons), 必要とされている全国調査の結果もほぼ同じ結果となっている (The results of a nationwide survey are also almost the same).
- Slide 16:** アンケート結果1 (Survey result 1). クマが人間に出没した場合、駆除すべきだと思うか (When a cub appears to humans, do you think it should be exterminated?). Pie chart shows 70% support for extermination, 30% do not support.
- Slide 17:** アンケート結果2 (Survey result 2). クマの出没が増える原因は何だと思うか (What do you think causes an increase in cub appearances?). Bar chart shows reasons: 人間の生活圏への侵入 (Intrusion into human living areas) 77.8%, 餌の確保 (Food security) 22.2%, 繁殖 (Breeding) 0%, 保護 (Protection) 0%.
- Slide 18:** アンケート結果3 (Survey result 3). クマによる被害を防ぐためには、どのような対応が必要だと思うか (To prevent damage from cubs, what do you think is necessary?). Bar chart shows responses: 野生動物の生息地保護を強化する (Strengthen protection of wild animal habitats) 77.8%, 駆除に当たる (Extermination) 22.2%, 餌の確保 (Food security) 0%, 保護 (Protection) 0%.
- Slide 19:** アンケート結果4 (Survey result 4). クマによる被害を防ぐためには、どのような対策が有効だと思うか (To prevent damage from cubs, what do you think is an effective measure?). Bar chart shows responses: 餌の確保を強化し、食料不足を解消する (Strengthen food security and solve food shortage) 66.7%, 餌の量と質を適切に管理する (Manage the amount and quality of food appropriately) 33.3%, 駆除 (Extermination) 0%, 保護 (Protection) 0%.
- Slide 20:** クマの共生は可能? みんなの意見は【アンケート結果集】 (Can cubs coexist? Everyone's opinion is [Survey Results]). Includes a pie chart showing 70% support for extermination, 30% do not support.
- Slide 21:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 考えたこと (Thoughts): 倫理的問題が関わってくる(正解のない問い) (Ethical issues are involved (no right answer)), 「人間に害を与えるクマを全部駆除してもいいのでは?」と言われると反論が難しい (It's difficult to refute when told 'It's okay to exterminate all cubs that harm humans?'), 様々な意見がある、他の意見も知りたい (There are various opinions, I want to know other opinions), 動物との関わり方は生活していく上で話し合うと良いのでは (It's good to talk about how to interact with animals in daily life).
- Slide 22:** 問題の探究 (Exploration of the problem). 豊府高校 公共の担当の先生に聞いてみた (Toyohira High School: I asked the public officer). Includes a speech bubble: いろいろな考えがあるので、それを2年生の公共の授業の「討議」(ディスカッション)として使ってみましょう (Because there are various thoughts, let's use them in the 'discussion' (discussion) of the public lesson for 2nd year students).
- Slide 23:** 課題解決-プロトタイプ (Problem solving - prototype). これらの情報を使って「公共の授業の課題の作成」 (Using this information for 'lesson creation'). 2年から始まる公共の授業でクマ問題を「討議事例」として使ってもらおう (Let's use the cub problem as a 'discussion case' in the public lesson starting from 2nd year).
- Slide 24:** 課題解決-プロトタイプ (Problem solving - prototype). 討議事例 (Discussion case). Includes a list of questions for discussion: クマが山から人間に出没してきたら... (If a cub appears from the mountains to humans...), 駆除すべきかどうか (Should it be exterminated?), 山に近づかない (Don't get close to the mountains), etc.
- Slide 25:** 今後の対応 (Future response). 先生からの解説(先生が現在対応中) (Teacher's explanation (teacher is currently responding)). クマについての疑問 (Questions about cubs). 今後の対応 (Future response): 功利主義 (Utilitarianism), 動物の権利 (Animal rights), 環境倫理 (Environmental ethics).
- Slide 26:** 参考文献 (References). Lists various sources related to cub problems and animal welfare.



# 受験における男女差別

チーム みんな平等!!

後藤梨紗（佐伯鶴城高校）／佐藤希一（竹田高校）／阿南智也（竹田高校）

みんな平等!!  
阿南智也(竹田)・佐藤希一(竹田)・後藤梨紗(佐伯鶴城)

テーマ  
受験における男女差別

- 1 テーマの設定理由
- 2 ありたい姿について
- 3 問題の探究
- 4 課題の設定
- 5 課題解決・プロトタイプ
- 6 総括

設定理由  
高校生のために、将来の多様な選択を可能にしたい。

ありたい姿  
将来の選択肢を狭めてしまわないように、幼少期の内に自分で創造することの楽しさを知ることができる。

現状

- おもちゃに「男児」「女児」などの表記がある。
- 数学・物理が苦手という思い込みがある。(女子)
- 高校生の選択肢が狭まってしまっている。

○進路指導の先生の発言に問題があるのでは？  
→ 生徒の希望を否定したことはない。  
・そういった指導をしている先生は見たことがない。

現状とありたい姿のGAP  
幼少期からのバイアスの影響で、高校生の選択肢の幅が狭い。

問題の探究  
問題の探究

- 幼少期からのバイアスが関係している。  
→ 高校生の文理選択にあまり問題はなし。
- 親から聞いた話

課題の設定  
幼少期の経験(遊び)が文理選択にどのように影響するのかを調べる。

1. あなたの性別は何かですか？

男性：17人(53.1%)  
女性：14人(43.8%)  
回答しない：1人(3.1%)

2. 理系・文系どちらを選択しましたか？

理系：19人(59.4%)  
文系：13人(40.6%)

3. 文理選択をするときは誰に相談しましたか？

父親：0人  
母親：20人(62.5%)  
兄弟：2人(6.3%)  
友達：5人(15.6%)  
家族全員：1人(3.1%)  
塾の先生：1人(3.1%)  
相談していない：3人(9.4%)

4. 文理選択において、選んだ理由に近いものを教えてください。

就きたい職業に関連しているから：16人(50%)  
好きな科目が多いから：8人(25%)  
得意な科目が多いから：4人(12.5%)  
親や先生に勧められたから：1人(3.1%)  
他に選択肢がない/進路の幅を広げる：3人(9.4%)

5. 現時点で希望している卒業後の進路は何ですか？

大学：29人(90.6%)  
短期大学・専門学校：3人(9.4%)

6. 幼少期はどんな遊びが好きでしたか？(複数回答可)

ブロック遊び：11人(34.4%)  
人形遊び：10人(31.3%)  
ゲーム：15人(46.9%)  
実験：3人(9.4%)  
読書・絵本：8人(25%)  
スポーツ・運動：14人(43.8%)  
読書・絵本：7人(21.9%)  
ごっこ遊び(お医者さん・お花屋さん)：8人(25%)

6. (理系・文系の比較)

6. (理系男子・理系女子の比較)

幼少期にしていた遊びの好きなところ

ブロック遊び  
理系・自分の行動が目に映る形になるところ。  
考えるところ。  
文系・美しいを共有できるところ。

人形遊び  
理系・自分の世界に入れるところ。  
文系・現実じゃない世界に没頭できるところ。

ゲーム  
理系・自由に遊べる。  
文系・たくさんの人と遊べる。

実験  
理系・面白いところ。  
文系・美しい。

幼少期にしていた遊びの好きなところ

スポーツ・運動  
理系・たくさんの人と遊べる場所。  
文系・体を動かすのが好きだった。

読書・絵本  
理系・考えるところ。  
文系・母親に読み聞かせしてもらえ。

図画工作  
理系・自分の好きなようにできる。  
文系・自分の好きなものを創造できること。

ごっこ遊び(お医者さん・お花屋さん)  
理系・色々なものがあるところ。  
文系・他のものや人の気持ちになれる。

プロトタイプ  
遊びやおもちゃに対して、幼少期に男女のどちらも平等な使用・体験ができるものを生み出す。

【型はめパズル】  
→動物、食べ物、乗り物など様々な形のパズル。  
→薄い色合いと濃い色合いのものを取り入れる。  
→集中力と、手先の器用さが必要。  
→親子で一緒に考えながら遊ぶ。

【幼児と保護者でできる幼児向けの科学実験】  
→安全で、幼児にとって面白いと思えるもの。  
→図画工作の活動ができる実験も取り入れる。  
→ペトボトルロケットの実験  
→スライム作り など  
※実験の科学実験遊び  
[https://shukutoku.repo.nii.ac.jp/record/321/files/K\\_0000254939.pdf](https://shukutoku.repo.nii.ac.jp/record/321/files/K_0000254939.pdf)

参考文献

レゴの取り組み  
<https://www.lego.com/ja-jp/rebuild-the-world/articles/eliminating-gender-bias-to-power-creativity>

絵すごらく  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsepp/47/0/47\\_615/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsepp/47/0/47_615/_pdf/-char/ja)

女子中高生の数学に対する意欲とステレオタイプ  
<https://idrv.ms/b/3/Au-jBr9M-vfcgQW5HwFYND8C6o>

第54回 女子は数学が苦手？—教師のアンコンシャス・バイアスの影響  
<https://idrv.ms/b/3/Au-jBr9M-vfcgQW5HwFYND8C6o>

高等学校における物理嫌いの要因についての一考察  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpsj/18/4/18\\_189/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpsj/18/4/18_189/_pdf)

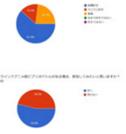
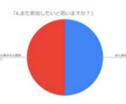
発表動画は  
こちら



# 人とアニメのことについて話したい！

## ・好きなものを語れる場作り・

チーム アニメが好きです  
是永悟（爽風館高校）

<h3>「アニメが好きです。」チーム</h3> <p>是永 悟</p>	<h3>自己紹介</h3> <p>大分県立爽風館高等学校 氏名 是永 悟</p> <p>現在力を入れていること ・ゲーム ・アニメ ・漫画 ・ラノベ ・アルバイト</p>	<h3>テーマ</h3> <p>人とアニメのことについて話したい！ ・好きなものを語れる場作り・</p>   	<h3>テーマを決めた理由</h3> <p>・テーマを選んだ理由 学校や生活の中で自分の好きなもの「アニメ」を全力で語れる状況がない。 普通の会話で「あのアニメが面白い」等の軽い会話はできてはいるが、時間を確保してまで熱く語ったことはない。</p> 
<h3>ありたい姿</h3> <p>自分の好きなものを堂々と語れる場所を作りたい！</p> 	<h3>現状とありたい姿のGAP</h3> <p>「自分の好きなものを堂々と語れる場所を作りたい！」</p> <p><b>現状</b> →好きなアニメの話を中心に話せる友人が少ない (好きなものを語りすぎるとひかれるかもしれないという思い) →アニメの話ができる人がどこにいてもわからない →どんな風に話をすれば良いかわからない</p> <p><b>ありたい姿</b> →自分の好きなものを堂々と語れる場所を作りたい！</p> <p>→アニメの話ができる場を作る</p>	<h3>問題の探究</h3> <p>どのような「場所」があるのか？ オフライン・オンラインのメリットデメリットから考えた</p> <p>「メリット」→細かな雰囲気まで伝えられる 「デメリット」→距離的な制限がある</p> <p>似たような例はあるのか？</p>	<h3>問題の探究</h3> <p>アニメの婚活参加者に質問してみた</p> <p>Q アニメの婚活はどのようなもの？ A 参加者が楽しく話を聞けるためにアニメの話を話すルールなどを決めて実施している。</p> <p>Q どのようなルール？ A 1分で自分の好きな作品を語る。物語が好き、監督が好きなど、そのほか好きな人などが集まり、話をしている。</p> <p>Q 盛り上がるためにどうしたいのか？ A 主催者がアニメが好きでいいイベントとして成功しない。アニメが好きならイベントは成功すると思う。</p> <p>衛藤 芳郎さん 婚活イベント「アニメの婚活」の企画者として参加した経験がある。参加者の声や感想を参考にしながらイベントを運営している。</p>
<h3>問題の探究</h3> <p>アニメの婚活参加者に質問してみた 大事なことまとめ</p> <p>1分で自分の好きな作品を語るために 話す「聞く」「感想を言い合う」時間をルールとして決めておく</p>	<h3>問題の探究</h3> <p>どのような「場所」があるのか？ オフライン・オンラインのメリットデメリットから考える</p> <p>「メリット」→距離的な制限がない 「デメリット」→話すのに抵抗がある どうやって人を集めるのか？</p> <p>似たような例はあるのか？</p>	<h3>問題の探究</h3> <p>昨年のSTEAM課題研究特別講座「Snow Clash」 ・テーマ バックグラウンド関係なく交流できる空間作り・</p> <p>実際に交流できる場所を オンライン上に作り、参加者を募集</p>  	<h3>問題の探究</h3> <p>「バックグラウンド関係なく交流できる空間作り」 大事なことまとめ</p> <p>→どんな人が集まるのか不安 →何をすればいいのかわからない不安</p>
<h3>問題の探究でわかったことしなないといけないこと</h3> <p>オフラインとありたい姿 「1分で自分の好きな作品を語る」「話す」「聞く」「感想を言い合う」時間をルールとして決めておく</p> <p>知らない人同士を集めるのはかなり難しい</p> <p>オンラインで開催する ・話す「聞く」「感想」の各時間を作る ・知っている人を呼ぶ ・多くの人を集めたいので参加者は高校生に限定しない</p>	<h3>どうやって解決するか(課題の設定)</h3> <p>学校でおこなった「ピリオドバトル」(書評合戦)をベースにオンライン版を作ったらしいのではないかと</p> <p>・ルール →好きなアニメ作品を各自3分語る(参加者は黙る) →3分語った後に「意見交換」(3分)の時間を作る →バトルではないので優劣はつけない。</p>	<h3>課題の設定・プロトタイプ</h3> <p>成立するかどうかをテストするためにアニメは好きだが、ピリオドバトルを知らないメンバー2名(天利・風木)と実際にやってみる</p> <p>成功しました ・他の人が話を聞いてくれるので面白かった。 ・メンバーからも「またやりたい」と言ってくれた。 ・年齢がばらばらの方が多い「話を聞いて面白かった」。</p> <p>改善点 ・プレゼン資料はなくても成立する ・時間制限は厳格にしない方がいい ・知識のない人とは話しにくい ・好きなものを語る場なのでやはり優劣はつけにくい方がいい</p>	<h3>アンケート(現状調査)</h3> <p>STEAM課題研究特別講座の生徒を対象にアンケートをとってみました</p>  <p>アンケート結果では7割が「アニメが好き」「週1-3話以上アニメを見ている」と回答しました。 また半数が「参加したい」という結果でした。</p> <p>まとめ 「参加のハードルさえ、低くできればアニメ好きピリオドバトルができる」ということがわかった</p>
<h3>プロトタイプ①</h3> <p>STEAM課題研究特別講座に参加している高校生(2名)としてみた steamiにいる「知り合い」までに限定して開催</p> <p>2名ともまた参加したいと答えてくれた。</p> 	<h3>プロトタイプ②</h3> <p>社会人(7名)としてみた 知識のない人を集めるのは難しいので知り合いの知り合いまで限定して開催</p>  <p>開催のために作った招待状</p> <p>(また参加したいと思う人が7人中7人がまた参加したいと答えてくれた)</p> <p>100%</p>	<h3>プロトタイプ②からわかったこと</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・知り合いの知り合いまでならコミュニケーションをとることが可能だった。</li><li>・プレゼンが「伝える力」が大事だとわかった。</li><li>・全員が慣れているわけではないので、主催者の「MC力」が成功の鍵だとわかった。</li><li>・社会人の人たちもこの場でやってみて楽しそうだった。</li><li>・後日社会人参加者より「ホラー映画が好きだけど、仲間がいないのでピリオドバトルをまたやりたい」と話があった。</li></ul> <p>自分の努力次第で「アニメの話をする場」を作れることがわかった</p>	<h3>今後どのようにしていくか？</h3> <p>また継続的にやっていき人を増やしたければ「知り合いの知り合い」という流れで拡大していく</p> 